

こんな本を読んできました

美咲は、思っていることを上手く言葉に出来ません。のどの真ん中にビー玉がつまって邪魔をしているように、言葉が出てこないのに、友達をうまく作ることも出来ません。

そんな美咲にいつも寄り添っていてくれたのは、亡くなった犬のレオンでした。唯一心を許せる、大好きだったレオンを亡くした事実を受け入れられません。

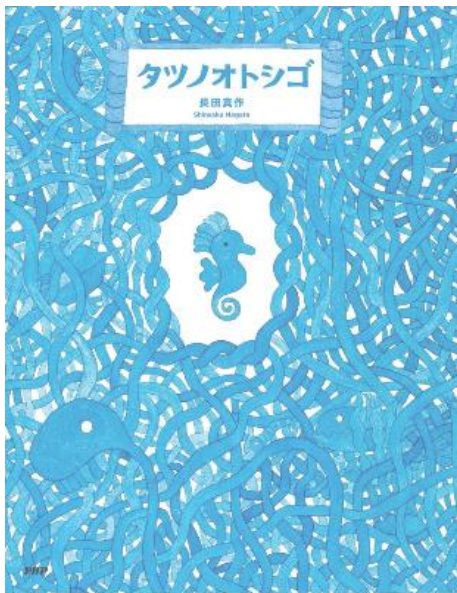
ある日、通学路のお花屋さんで、レオンそっくりの犬を見つけます。

お花さんの店主のおねえさんと、レオンそっくりの犬のビリーとの関わりの中で、美咲はレオンを失った悲しみを乗り越えていきます。見えないビー玉が美咲の声でぐちゃぐちゃになりました。美咲は誰の名前を叫んだのでしょうか。美咲の成長に、心がほっこりします。ペットを飼っている人は、共感で涙なしには読めないかもしれませんよ。



タイトル	夜明けをつれてくる犬
著者	吉田 桃子／著 Naffy／装画
出版	講談社

呉市と関わりのある作家や事柄の所蔵資料を紹介します。



郷土資料

タイトル	タツノオトシゴ
著者	長田 真作／作・絵
出版	PHP研究所

著者の長田真作さんは呉市出身です。タマゴの中からとびきり元気に生まれてきたタツノオトシゴのお話。この本を手にとった時、表紙の絵に引き込まれてしまいました。それは美しい青の世界。その中にポツンとタツノオトシゴが描かれています。よく見てみるとまわりに仲間達が隠れています。

ページをめくっていくと、色々な青の中にとけこむタツノオトシゴ。海の世界で小さなタツノオトシゴが色々な出来事に遭遇します。ゆっくりとした流れが後半は一気に速くなり、青の濃淡が優しく語りかけてきます。仲間達の中に隠れているタツノオトシゴを、「どこにいるの?」と探すのが楽しい絵本です。